



## 第16回千代田まちづくりサポート活動成果発表会

## 多種多様なまちづくり活動の成果を発表



平成29年4月16日(日)、第16回千代田まちづくりサポート公開審査会で助成対象となった13グループの活動成果発表会が、ちよだプラットフォームスクウェアにて開催された。

各グループの発表は、昨年7月の公開審査会の時とは違い、自信に満ち溢れていた。この1年間のまちづくり活動の成果に自信があるのだろう。発表時間3分では語りつくせない各グループの成果が順次発表された。

なかでもサポート大賞を受賞した「神田プロレス」は、これまでの助成グループにはない独創的な発想を持っていた。神田明神(神社)で奉納プロレスを開催するなど、これまで誰も考えもしなかっただろう。助成当初は、プロレスがどのように千代田区のまちづくりに寄与できるのか心配していたが、地域の名所・住民を巻き込んでの活動は、会場にいたすべての人が大賞に相応しいグループと感じたはずだ。

今回から新たに設けた普請部門では、昨年11月に二次審査を通過した「海老原商店を活かす会」が、付帯された助成条件をすべて充足していることが審査会から報告された。近代建築の保存活用のおよび先例として、また、地域の交流拠点となることに期待したい。

全体を通して、助成グループ間での連携や交流が活発で、在住・在勤等の枠にとらわれず、人を巻きこんでいく形のまちづくり活動が多く見受けられた。映像をテーマとしているグループ同士の連携などがそのよい事例だ。各グループが今後の活動に向けて、明確に課題を見つけている点も素晴らしいと思った。

また、助成グループに対して、的確な助言・フォローを継続的に行ってきた事業協働契約先である(一社)千代田まちづくりプラットフォーム(以下まちプラ)の存在も各グループの活動に大きな力となっただろう。

次回、助成対象グループを決定する第17回公開審査会は、来る7月1日(土)、九段生涯学習館で開催される。誰もが驚くようなまちづくり活動テーマが提案されることを期待したい。

## 目次

## 【第16回助成申請グループ(発表順)】

## 【一般部門】

神田暮らし探検隊(2回目)	2
神保町映画祭実行委員会(2回目)	2
神保町コミュニティプラザ(2回目)	3
世界に広めるらくがきPROJECT(1回目)	3
神田プロレス(1回目)	4
文人通りギャラリーカフェ(1回目)	4
グリーンネイバーフッド千代田を目指す会(1回目)	5
Sophia Information For Visitors(1回目)	5
P C N 秋葉原 Assemblage(1回目)	6
麹町小学校ワーク・わく・クラブ応援団(1回目)	6

## 【はじめて部門】

オクトパシー	7
--------	---

## 【テーマ部門】

内神田を面白がる会	7
-----------	---

## 【普請部門】

海老原商店を活かす会	8
審査会委員講評・総評	8~10
退任挨拶	11
市民町づくり支援・都市ネットワーク会議	12
賛助会員一覧	12

## 審査会委員 紹介

会長	新田 英理子 認定特定非営利活動法人日本NPOセンター 事務局長
副会長	中島 直人 東京大学大学院工学系研究科 准教授・工学博士
委員	片岡 勝吾 麹町五丁目町会 副会長
委員	後藤 禎久 市井人・斎藤月琴に学ぶ会 会長
委員	江口 貴大 興産信用金庫お客様支援室 次長
委員	朝比奈 ゆり 東京ボランティア・市民活動センター
委員	小川 久美子 千代田区 地域振興部参事・コミュニティ総務課長



▲改修された「海老原商店」

編集・発行：公益財団法人 まちみらい千代田 まちづくり推進担当

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-21 ちよだプラットフォームスクウェア4F TEL.03-3233-7556 FAX.03-3233-7557  
https://www.mm-chiyoda.or.jp E-mail machisapo@mm-chiyoda.or.jp



今年はテーマを絞り、子供を対象に活動。まず、6月の終わりから7月に「暮らしの調査」として親御さんにインタビュー。基礎的な情報を集め、それを基に行ったのがまち歩きツアー「子どもまち探検」で、写真を撮って、それ

でカルタを創ってもらい、地域資源の発掘と共有を図った。だが参加人数を確保できず、4人の参加者に止まった。

広報の体制や活動の内容を検討する必要を感じ、中間発表会で皆様から頂いたアドバイスを基に、次に行ったのは「万灯づくり」。万灯は神田祭で使われている祭りの道具。これを創る体験を通して、子供に地域の資源を知って神田の町を好きになってもらうというプログラム。幸い千代田小学校や学童クラブ等と連携し、授業の中で実施でき、参加者が100人程までになる。

その中で地域の方々に様々なアドバイスを頂いた。小学校の先生方ともお話ができて、子供だけでなく神田の大人の方達との交流も実現。活動の成果を踏まえて冊子を創り、皆様と成果を共有し、地域に愛着を持って頂けるよう、「神田の子ども手帳」を制作した。イベントに参加されなかった人にもお配りして神田を知ってもらおうと思う。

神田の子供達は忙しく、その隙間の時間に活動参加に引き出す困難さも痛感。この地域では子供を見守る大人の存在が大きく、

多くの方が関わって下さった。例えば道路を貸し切りラジオ体操をしている方々が新参者の我々に共感して学校を紹介して下さい。キーパーソンへの働きかけが重要だと気づいた。今後は様々な活動をしている人達がつながる機会や場があると更に発展すると感じた。

Q：造った万灯は、神田祭に使われるのか？どこへ行けば見られるのか？

A：万灯は小学校で10本制作。千代田小学校に保管して、校内で神田祭直前に使う。多町2丁目町会にも祭りに使うよう依頼している。

Q：小学生の参加者が少ない。もっと参加してくれる子供を増やす努力をしてほしい。

A：小学校と児童館にもチラシを置き、声をかける。祭でお神輿と万灯の両方を交替で担げるように、とも考えている。

Q：授業の中で万灯を造ったのはすばらしい。「子ども手帳」も大学生の活動なので次の学年への引き継ぎをどう考えているのか？

A：「手帳」は子どもたちの情報も載っており慎重にしたいが、地域の親や子どもの理解者へは配る。本日も会場に10冊ほどあるので、お声をかけて下さい。活動は学生有志でやっているが、終わっても研究室内の個人的なつながりもある。今後も個人として地域に関わっていきたい。



「第2回神保町映画祭」を11月の2日間にわたり開催。延べ235人の来場者。コンペへの応募は163作品。念願の神保町シアターで受賞作品の上映が叶った。ゲストにカンヌ映画祭受賞者の深田晃司監督にお越し頂いた。

この映画祭は親子3代で楽しめるよう地域とのつながりを大事にして4つの活動をした。

1つは、すずらん祭でのアニメ作品の上映。アニメのワークショップも開催。会場設営はまちづくりサポートのユメラボに依頼。2つ目は「まちのひと審査会」で映画祭のコンペを実施、会場など神田ビルジグ協会のご協力を得て、地域とのつながりも広がる。3つ目は神田をロケ地にしたショートムービーの制作。神田組による撮影時のお手伝いやロケ地の紹介をする。ロケ地の方から話しかけられ、上映時にもロケ先のお店を知っている等と言われた。作品で地域の交流を実感する。

千代田区社会福祉協議会より高齢者活動支援センターの「かがやき大学」で映画の講座の依頼を受ける。澤口明宏監督による計6回の講座へ55歳以上の方30名の受講者が参加。高齢者の方が、「まちのひと審査会」に参加したいと言われご協力頂くことになる。

海外の映画祭と提携、ハンブルグ映画祭とコラボ、ハンブルグ

で神保町映画祭の推薦作品「秋の午後」等3作品を上映することになった。神田の魅力的なロケ地の多いこの作品が海外で上映されるのは光栄。

また、ホームページのリニューアルを行い資金調達も考え、有料のサービスにした。今年11月には第3回神保町映画祭を開催予定。毎月の上映会を移動式で、区内の各会場で開きたい。4月と5月は駿河台のコトブキシーティングで自主映画の4作品を楽しんで頂く。

課題は映画祭後の会員の定着。今のメンバーの声を大切に、新会員が長く活動していけるように目標の共有とその工夫。スムーズに活動を継げるには作業分担とマニュアルの整備も必要。上映会を大切にしていきたい。

Q：千代田区のロケ地の紹介などNPO市民映画団体との交流等も工夫してはどうか。

A：首都圏映画製作連合と連携、中心メンバーの充実を考え、地域との交流も図る。

Q：今後どのくらいの規模で活動するのか？

A：事業化はしたい。最低限の経費や継続を考えて、夢を持ち魅力をアピールしていく。企業の応援だけに頼らず、バランスをとる。

Q：サポートの3回目にも、来年度も引き続き、ぜひ応募してほしい。





出かけ、関連グッズの販売もした。

今年度の実績は、昨年7、8、9月の3カ月に勉強会、定例会を開催、サイトも作り、10月にイベントを開く。並行して、神保町コンシェルジュ運営協会のグループ会議。古書店主から神保町の古書店組合について伺う。街歩きツアーでも図書館へ行ったりして神保町のことを1から学び直した。

今年は漱石生誕150年なので、また街歩きのガイドのオファーを頂いた。宣伝のポスターやチラシも、プロの漫画家に依頼して制作。千代田区観光協会も後押ししてくれ、PR動画という新しい方法(パンフレットにスマホをかざすと動画が動き出す)に取り組んだ。おかげでどのイベントも満員となる。関連グッズの販売や展示も予定より多く実施できた。ガシャボンの機械まで購入した。

「謎解き街歩き」は好評のうちに748名の参加者となる。中には街歩きでコスプレをしてマントを着て歩いたり、東京堂書店のショーウィンドウに漱石の写真や書籍を並べたり、9日間105名のスタッフでやり抜いた。規模が拡大し、謎解きイベントのゴー

今年は新しい柱を2つ建てた。昨年在没後百年となる夏目漱石をテーマに「謎解き街歩きゲーム」を加えた。また、落語カフェにて語りイベント「神保町と漱石と能楽」を実施。更に東北大学図書館と漱石つながりで交流、仙台にも

ルに学士会館を使い、豪華な最後の物語演出を加えた。

支出が当初の予定の1.7倍に膨らんだが、それを上回る来場者があったので、その収入でほぼ賄えた。今後の課題は、これを一過性のイベントに終わらせないこと。どうやって地道な活動を継続していくか。今年度は派手なイベントはやらずに、地道に街歩きを根付かせようと考えている。

Q:「夏目漱石百年」で大当たり。来年の地道な中にも色の濃い活動を期待する。

Q:収支を考えた時、今後、助成金がなくてもやれるのか?参加費等どう感じているか?

A:500円の参加費はありえないと参加者にも言われ、次回は1500円位と考えている。ボランティアに頼んだので人件費は赤字にならなかった。今後はそれはできない。この活動が切っ掛けで他の団体が違う形で始める動きも出ていていると聞き、満足している。

Q:新しい企画も考えられると期待しているので、これからも頑張してほしい。

Q:メンバーが半減したのは課題、105名のボランティアに支えられたが、メンバーの継続はどう考えているか?観光協会の協力を得て行くのもよいと思う。頑張ってください。

A:今、中心メンバーが4人で、ガイドを維持するには年に4回のイベントが限界。その余裕で新メンバーを募り、人材を育てたい。



アーティスト達の気持も解りながら体調不良で動けなかった。スタッフの人も自分達でやると言ってくれたが、開催地の方に御迷惑がかかってはと案じられ、他の団体の方からも声をかけて頂いたのに、やはり思いきって活動できなかった。

ただ、昨年10月のお茶の水アートピクニックには例年通り参加でき、助成金も頂け、多くの方に支えられて感謝している。開催前に紹介チラシを配布した区内12の幼稚園、小学校等からたくさんの子供達に来てくれて、触れ合うことができた。アーティスト8人によるワークショップも、2年、3年と継続してゆっくり活動することもご提案頂いた。だが、実は手術を控えており、とにかく1度お休みさせて頂くことを決断した。

アーティストの方達も再開すればいつでもと言ってくれるので、いずれと考えている。ボランティアの方達にも、もっと還元できるように活動したかったのに、せっかく頂いた助成金も、充分

子供達に本物のアートに触れる機会を作りたいという目標を持ってまちづくりサポートに応募した。事務局やまちプラから助言を頂いたり、中間発表会では児童館にも声をかけてはとアドバイスを受け、活動したい気持とらくがき

には活かせなかったという思いで、残念でならない。だが、やりたいことは変わっていないし、気持ちも以前どおり強いので、また体調が戻れば続けたいと思う。

Q:独りで抱え込まなくても、スタッフの方達に手渡して続ける可能性はないか?

A:それも考え、その方達を支えて行くことも可能かと思う。アーティスト達は自分達でワークショップ等、場所さえ設ければ動いてくれる。しかし、責任者の顔が見えない状態だと、不安に思われることも有るか考えた。無責任にはやれないと、躊躇した。今回、継続してできる活動だと解ったので、また少しずつでも動いて行きたいと思っている。

Q:生活しながら活動するというのは大変だが、それが良い所でもある。休養後、またやりたいと言ってくれたので、待っている。「らくがき」というテーマは新鮮、アーティスト達と地域を結びつけてくれた企画には、発見もあり、充分役割を果たしてくれた。

Q:会計報告書では22万円の助成金のうち、5万円しか使われてないが、その残金は?

A:新たに小学校等で活動できず、アーティストへの謝礼等が使えなかったため、一旦返却したい。改めて再応募し活動したい。



「神田明神で、ついにプロレスをやりました。」10月のスポーツ祭での費用は、まちサポの助成金は使わず、収支報告書は分けて記載した。この神田で子供達がハッスルできる場を作るためだが、今回、2部構成で企画。神田明神の祭務所地下ホールでのプロレス。同じ日の11時から2時までを「神田明神こどもフェスタ」でリング上でのお話会やドッチビーというボールでのスポーツ体験、JUN & ちさによる音楽ライブでプロレステーマソング。

2時から「神田明神奉納プロレス」、ちびっこプロレス教室等、レスラーにも子供達と触れ合う時間をとった。告知活動として、2月にレスラーにも節分豆撒きをさせてもらった。ここまでは自分達でできたが告知するのは大変だった。請負でイベントの中に入れてもらってきたが、自分達が主催するのは初めて。広報の仕方が分らず、町会の方に紹介してもらい教えて頂いた。児童館や図書館等は引き受けてくれたが学校や幼稚園等は難しい。

スポーツ連絡協議会の方に伺い、レクリエーション保険等にも入った。その保険屋さんが本屋さんを地元の小学校の校長先生を紹介してくれて最終的には超満員。時間で区切り幼児から大人まで開催でき、入りきれないほど盛況だった。

最初は神田明神の境内でと思ったが、それはハードルが高く、3年間継続して最後には境内でやれるようにと言われた。開催中に神田明神の方々が見に来てくれ、終って挨拶したら「境内でや

らないとね」と言って頂いた。

Q：神田明神で行うのであれば地下よりも境内だが、神社でなくても他に場所はないか？継続するには他のイベントの利用も考えてはどうか。

A：地下ホールだと見た目のインパクトが弱い。興業でやるのは簡単だが親子連れで無料でやりたい。自治体等で呼んでもらえるとありがたい。神田明神が切っ掛けに、夏祭にも呼ばれたので、広がらないかと考えている。

Q：リングを造るのに多額の費用がかかるそうで、無料でやるのは難しいかと思う。サポートが無くなった後はどうするのか？

A：サポートの3回でやっている間に声をかけて頂く所を見つきたい。今回は近親者を中心に声かけをしたが、広がりは見えて来たので、更にイベントの充実を図る。岩崎書店『パパの仕事は悪者です』（悪役覆面レスラーの絵本）の作家が即席サイン会を開いてくれた。より魅力的な活動にしたい。



▲サポート大賞を受賞



番町、麴町地域には住民同士の交流の機会も少ないので、それを提供したい。江戸・明治時代からの家の住民もいれば、新しいマンション住民もいる状況で、文人通りにあるカフェを店主の協力で毎月1回地域の人々の交流の場として開放、居場所作りをしてきた。集い、知り合う人達で何かイベントもして行こうと言う会。まず一人でも多くの方に知ってもらうことを目標に町の歴史に焦点を当てた。

1回目は去年の8月、講演会「番町文人通りとその周辺のゆかりの人々」。講師は新井巖氏。2回目はまち歩き「江戸から昭和のこの地に暮した人々へ思いを馳せる」ウォーキング。3回目は古地図で辿る江戸から現代までを語り部杉浦さんが話す等、全8回の開催で、のべ168名の参加者を得た。講師も参加者の紹介や推薦で決め、参加者が受け身でなく、発信する側にも回れることを実感する。

毎月1回の開催は大変だったが確実に定期的に開いたことが、参加者の安心感や連帯感となった。第4回は、まちサポ創設メンバーの小藤田正夫氏が「外濠と鉄道建設」を講演。第5回のクリスマス会では地域の人にランチを作って頂き食べたり、第6

回はカードや葉書に絵を描いた。様々な趣味のテーマでやることも良いと思った。

マンション住人にも声をかけた。1棟だけは許可してくれたが、チラシ等も配れなかった。千代田区の方はポスターを張ることを許可し、区報に取上げてくれた。おかげで番町、麴町以外の方も多く来てくれた。今年の会を参考に、無理のない形で続けて行きたい。

Q：千代田区住民は6万人を超え、事務所ビルがマンションに変わり、マンション住民が急増したが、地域に対してはクローズドな住民が多い。ぜひ、そこをなんとか工夫して開いて頂ければ町会としてもありがたい。

Q：日曜の午後の会で、参加者の男女比は？年齢層は？ 曜日は他にありえないか？

A：ご夫婦で参加が多く、年齢は様々だが、高齢者も多いので、日曜の午後がちょうどよいと思う。勤労者には日曜日ガリラックスできる。テーマにより集まる層は少し変わった。子供も含めご家族での参加もある。

Q：今後は無理なく参加者主導型とあるが、具体的にはどういうことか？

A：バックアップはするが、自主的参加により参加者からアイデアやテーマを発信。スペイン語と料理教室、コーラス、英語の俳句等、連続でやれるものをとを考えている。



## 7 いろいろな人たちが関わるグリーンなまちづくり

(グリーンネイバーフッド千代田を目指す会) (一般部門・1回目)



大きく分けると、Chee's、ダイアログ、ネイチャーウォークの3つの活動。Chee'sは千代田の良い所を集めて地図に残すウェブサイト、人々が街に出る切っ掛けになる。ダイアログは対話の意味で様々なテーマについて具体的な

アクションを議論する「環境まちづくり」。ネイチャーウォークは自然観察会で、皇居東御苑や日比谷公園で行った。この3つの関連性は、住民、在勤者、学生、障害を持つ方など、皆が関わって環境まちづくりを行うこと。街に出ることで関心を持ち話し合い、気づいた課題を解決する。

Chee'sは5月5日にリリース。編集者も募集する。去年は手描きの地図を作り発表し集客に苦労したが、今回はお洒落な地図をウェブで表示でき広まった。制作のデザイナー仲間、プログラマー等も巻き込み、20代～40代の人も集まった。ニコライ堂や神田明神、神保町の喫茶店、千代田と新宿区の区境にある外濠等のスポットも映像を交えて紹介。

ダイアログでは、再開発の動きの中で、住民、都の行政の方、企業のエコ検定合格者等で環境の問題点を話し合うことができた。

ネイチャーウォークは、サポートの必要な障害を持つ方と一緒に、誰もが参加して楽しい自然観察会を目指して開いた。まちづくり推進協議会と共催して行った。いろんな人が参加できる方が、質の高い街づくりや環境を大切にしたい活動ができると実感した。

Q：参加人数が毎回10人前後に増えたことはどう評価するのか、なぜだと思うか？

A：コンセプトを作り、チラシデザインも告知にも力を入れたので、関心を持って頂けた。

Q：満足されたようだが、改善策はないか？

A：サイトをつくっても運用が大変とアドバイス頂いた。サイトを見た方が参加できるよう、千代田のビュースポット、高台等を参加者が写真を撮り、Chee'sのアプリに反映したい。

Q：住民と在勤者の見た街のズレとは？

A：ネットや雑誌で見る再開発の情報は住民のお話と違う面がある。現地に取材し、自分の言葉で書くことが大事だと思った。

Q：今後、見えて来た会の目指すべき所は？

A：参加者の仕事や立場の違いで意見が異なる。話し合いで合意形成を目指したい。

Q：千代田の昼間人口は多いので、在勤者と住民の接点を設け、つなげて頂きたい。

A：千代田の在勤者の能力も高く一緒に何かできると思う。麹町と秋葉原の人と場所をつなぎ、協力できるのではと感じた。

## 8 Tokyo Disaster.Com (災害時における外国人観光客を対象とした避難誘導と情報発信)

(Sophia Information For Visitors) (一般部門・1回目)



上智大学の学生、院生で活動している。多くの留学生が地震等の災害を不安に思っている。3・11の大震災の時も東北の外国人がパニックになった。首都直下地震も想定され、千代田区も例外ではない。訪日外国人、留学生のために何かしたいと会を立ち上げた。災害時には適切に行動し彼らのサポートをしたい。

1年間の活動は昨年9月1日に森ビル総合防災訓練に参加、10月には元クロアチア政府観光局長のE・T片山氏の防災・災害についての講演会。また、都が主催する外国人支援の防災訓練が開催され、外国語で訓練を実施。外国人家族への図解付き防災説明資料の作成を考えた。千代田区観光協会の事務所に会のメンバーが災害時に集まり支援窓口を開設してのサポートを考えている。

今年2月に、地盤ネットホールディングス(株)とパートナーシップ協定を締結。地盤研究の会社で、地域の人と防災について活動することに共鳴して頂いた。早速防災ウォークを実施、地元の人や留学生とスマホアプリを使って、実際に災害時に何処にリスクがあるか、避難場所はどこか、一緒に学んだ。小笠原や京都の同様の団体も視察した。

課題は、学生が中心なので、時間も費用もかかり、参加者が少なかったこと。企業との連携も進まなかった。今後は区内の他の大学との連携を考え、大妻女子大学や明治大学と実際に話を進めているが、法政大学ともぜひと思う。千代田区観光協会の理解を得て、外国人の災害時のパスポートの再発行や国外避難の手続き、避難場所などの情報提供等に当たる仕組作りをできればと思っている。

Q：アンケートの結果、成果はどうか？

A：中国語、英語、韓国語でアンケートを実施したがサンプル数が多くデータ化していない。災害時に求めている情報やサービス内容を調査したので、今後分析して発表する。

Q：千代田区内を対象としたサポート事業なので、もっと地域に焦点を当てるよう改善してほしい。

Q：大学の公認団体と聞いたが、どういう支援があったのか？外国人の多い企業と連携できなかった原因は何か？

A：大学のサポートは、防災講演会の場所の提供。企業からは、大学のサークルと見られて、あまり信用されなかった。上智大学出身の経営者の企業に徐々に働きかけていく。

Q：町会としては区立の小、中学校で避難所の提供をする。そこに外国人が来た場合の最低限の資料等を用意できれば助かる。

A：ぜひ、それはやらせて頂きたい。

9 ～ものづくりを通じた秋葉原電気街と千代田区の教育連携を目指して～ 千代田区を電子工作で盛りあげよう！プロジェクト (PCN秋葉原 Assemblage) (一般部門・1回目)



秋葉原の工作スペースを活かし、子供達にもものづくりの楽しさを体験してもらう活動。

まず知ってもらうために、地域イベントと連携し、秋葉原の商店と協力して、子供や学校に興味を持ってもらえる電子工作教室を実施した。

アンケートでも好評だったので、まちサポの3年間に企画を出して、アタックしたい。

まず、12月にアキハバラキラキラ計画として教室を開き、はんだづけとLEDを組み合わせ、プログラミングで冬のイルミネーションづくりを行い、幼稚園児から65歳の女性まで、小学生は32名が参加し40数点を展示。

秋葉原電気街振興会、電気店組合、東洋計測器、クラーク記念国際高等学校秋葉原ITキャンパスでロボット専攻コースの学生等に協力して頂く。電気街まつりにも参加、免税店、家電店を中心に10店舗で20作品を展示した。

工作教室で初めてはんだゴテを持った子が、女子も6割～8割もいた。プログラミング体験会でフィールドワークをしたが、店主にインタビューして電気街史をまとめた。初版300部を発行、千代田区観光協会に本をご紹介頂く。これを来年度小学生に

もわかる内容にして地域の人にも配りたいと考えている。

今年1月に神田小川町雪だるまフェアに参加し、来年度にはロボットを走らせると雪だるまに伝えた。区内の小、中学校でのプログラミング工作教室を実現したい。総務省でIchigoJamというプログラム教室が学校で今年度から実施されることが決定したので、それをよい流れとして頑張りたい。

Q：報告書で保険で悩まれているとは？

A：電気ではんだ付けで、危険もあるので、イベント保険に加入したいと考えJA共済に相談したが、結果、保険の対象にならないと加入できなかった。子供を安全に工作させたいので、来年度の工作教室では実現したい。区の施設も、はんだ付けにはNGで、場所探しに苦労している。中学校の技術の教室等を借りたいと柔軟に考えていきたい。

Q：神田祭のアートイベントにはどうか？

A：申し出たが空きがないとのこと。神田、麴町地域でご紹介か、コラボして頂ければ有難い。いつでも工作教室は可能。

Q：まちプラがアドバイス、相談に応じてくれるのではないかと本郷さんどうか？

A：月例会では話は聞いているが、できることと、できないこともある。タイミングを探ってすり合わせ、来年以降サポートできるようにしたい。

10 私たちの麴町!! 劇的ビフォーアフター (麴町小学校ワーク・わく・クラブ応援団) (一般部門・1回目)



私達は麴町がもっと楽しく面白い町になるように考えました。5月には、まちなか探検に出かけ、麴町小学校の周りを調査、良い所、悪い所、気づいたことを提案します。7月に、提案したことを実現してもらうために公開審査会に参加、発表して助成が決定します。

9月に、コーギーランドを実施、遊び場や憩いの場を造り、日本の文化を知る場所を実現するイベントを開きました。ものづくりコーナーでまちなかに置くベンチを造り、昔の遊び手作りコーナーではコマや竹とんぼ、水鉄砲、万華鏡等を作りました。ベンチは番町の庭、麴町小学校、一番町児童館、麴町出張所、カフェアマルフィ、千代田区観光協会の6か所に置いてもらいました。

11月のまちサポ中間発表会で、活動の様子や町に置いたベンチの様子を報告。私達が造ったベンチは沢山の人に使ってもらいました。12月から3月までに、私達の活動を紹介する絵本ができ、麴町小学校の全員に配りました。千代田区の図書館にも置いてもらいたい。今年も沢山の友達と活動ができると嬉しいです。

Q：感じている課題と今後の活動の抱負は？

A：今まで大人が枠組みを作り子供達を乗せたが、昨年度から子供達に考えてもらい、その提案を大人が実現することに。い

わば、これまでまちづくりを学ぶ大学生にやってもらったことを子供達にやってもらうので、課題までは気づけない。どう子供達に課題にも気づいてもらうか。それが大人の役割かと思う。

絵本の中に参加した子供達の感想も書いてあるが、参加することで見えて来ることが多い。子供達が活動により実感することが大事。まちづくりへの参加は子供達の成長につながるのだから、大人がサポートすることが大切だ。

Q：子供達と活動した大学生の皆さんは、何を感じ、今後はどうするのか？

A：子供達から学ぶことが多く、子供の視点での、学生が気づけないまちづくりが多くあることを知った。千代田区には公園が少なく、ゴミ袋が道路に置いてあるのは子供達が嫌がっていた。今後も続けて活動したい。

Q：日本大学の学生メンバーとのこと、普段は何をされているグループなのか？

A：日大卒業後サラリーマンをやっていたが2年前に法人化して高齢者、障害者や子供に関わる事業を区の委託を受けてしている。日本大学の他、共立女子、大妻女子、法政、上智等の学生も、昨年で400人の登録があり、多い時で2日間で9箇所での事業を並行して行う。このサポート事業には日大のまちづくりを学んでいるメンバーが参加した。



## 11 世代を超えた町の風景映像のアーカイブ作りとファミリー向け映画の上映会開催

(オクトバシー) (はじめて部門・1回目)



フィルム貸し出しをする都立図書館の移転で上映活動ができず、また破損による修理部品を揃えるのに時間がとられた。そこで、海外からの旅行者の記録フィルムをデジタル化した映像を見て頂く方に活動の軸足を移した。

パンナムが撮った1955年頃の来日観光客向けの16ミリフィルムを海外より購入。当時の神田祭の様子等が映っている。1964年頃の8ミリフィルムは個人の訪日旅行記録。この時代のフィルムをカラーで残していることはほとんどないので、これらを鮮やかなカラーで観る価値がある。文化教育のみならず、医療にも役に立つと気づいた。

映像には銀座和光の所で横浜まで行くボンネット・バスがカラフルに映っている。銀座の交差点から旧日劇の方を撮ったものは千代田区の映像。昔のショーウィンドウ、昔の扇風機や冷蔵庫等が見え、その前を歩きかう人びとの姿、芸妓さん。当時の日本の家屋や、カメラに手を振る人等が収められている。映像には銀座と千代田区はかなり出て来る。こうしたフィルムを更に購入し、今後デジタル化して広く皆さんにお見せしたい。

限られた人数の会なので、活動も限られてしまう。なんとか皆さんのお知恵を拝借し、人脈を大切に、次年度は更なる活動の拡大をしたい。今後、これをDVD化したいと考えている。都立図書館のフィルムライブラリーの再開も希望がもたれる。

Q：医療にも役立つとは、具体的には？

A：初期の認知症の方等がカラーの昔の風景等を見て、海馬を刺激されて思い出すことが考えられ、医学的に立証されていないが、リハビリにもつながるのではと指摘された。元々は子供に向けて考えた活動だが大人にもよいのではないかと感じ、高齢者支援センター等での上映も可能かと探っている。

Q：映像だけでは理解が難しい面があるので、見ながら語り合う会にはどうか？

Q：昔のフィルムをデジタル化して観るのは意義があるが、実際にその作業は完成にどのくらい時間がかかるのか？

A：その都度、アップデートされていくので、できた物から上映会をしていく。

Q：去年は児童館で上映会をして、目標はファミリー向けということか？ 手掛かりは？

A：子供と大人と両輪でやっていく。上映会は場所探しが難しく課題だが、頑張ります。

## 12 ちよだマンション・カフェ

(内神田を面白がる会) (テーマ部門)



まず、神田をよく知ることからスタート。夏頃に、ご紹介頂いた町会長に挨拶し、そのお話がとても面白く学ぶことが多かった。『大好き神田』の報告会も傍聴した。その後で、第1回を開催。築50年ほどの古いビルをリノベーションし、事業グループの交流会イベントを56所帯が暮らすtheCと言う建物のスペースで開く。助成金はこの会場費に充てた。

このマンションの住民はシングルの方が多く、どういう考えをお持ちなのか知りたいと、神田、小川町に近いこの場所を選んだ。会は、この地下の50名ほど入れるイベントスペースで、各々のテーマで6回開催。回数を多くするより、各テーマを掘り下げたいと思った。

マンション住民は他の町から移って来ている人が多いので、どういうイベントがよいかを考えた。第1回、第2回は神田のまち歩き。普段通り慣れている町も、「面白がる」観点で見ると看板等発見があり、それを皆で写真に撮り、それを基に地元の方にその店の成り立ち等を伺う。第3回は住民の方に何が必要なのか伺い、課題を絞った。顔の見える関係が大事と思い、第4、5回は町会長の横田さん等に話を伺い、神田明神とも神社と一緒にできることを考えた。会場は満員に近かった。第6回では、空

いているスペースがあり、そこで皆で何ができるかを話し合った。

関心のあるものには人が参加することも再認識。次への展開は、継続してほしいという声も聞いたので、イベントより常設拠点を造り、そこで集まることを考えている。来年度挑戦できればと思っている。

Q：マンションと地域との交流で、毎回地域の方を呼び、平日夜の定例会に、新しい方も掘り起こし参加して頂けた。地域密着の活動は難しいので、期待している。

A：トータルで180名の参加者があった。住民は20%弱、他は在勤者や千代田が好きの方。

Q：報告書にはあまり書かれていない。発表した内容も文字にして頂けたらと思う。

Q：神社と一緒にできることで、何か生まれたことは？ あるいはヒントでもあれば。

A：第5回で清水権宮司さんの話を聞き、ハードルの低さを感じた。アニメ、映画や、婚活イベントをしたとも聞いた。相談することか。

Q：イベントには限界もあるというが、常設というのは少し詳しい話を聞かせてほしい。

A：専門は不動産なので拠点を造ることで効果を出せる。課題を面白がりながら解決して行ける可能性や多様化があるかと思う。



やはり古い建物で、修復等が中心になった。水周りの場所の焦げた柱等は東京大空襲にも残ったものを補修。再開発が周りで進み、地盤が沈み家が傾いていた。油圧式のジャッキで傾きを水平に直す。設備系統は、コンクリートを

剥がすとガス管が腐りガスが漏れていたのが改修。次々に問題が出て大工、職人さんが頑張ってくれたが工期はだいぶ延びた。

伝統工法による耐震補強・改修工事により、当時、商売をしていた土間や土壁の復旧もできてイベントにも使える場所になった。ぜひ利用してほしい。天上からの吹き抜けは埋もれていたが、それを復活させ、空からの光を入れることもできた。

完成は2月になったが、まず、としまち研の一木会を開き、他にも神田地域の勉強会を種々立ち上げて開催。地域の音楽教室の発表会の場所にも使われ、3月にはお披露目会を開いた。地域飲食店のケータリングも利用してもらった。2階は20人位が入れる。

課題は、建物の修復が完成して日も浅く、これまでは皆様のご縁で利用して頂いたが、今後は、ホームページ等でも広くイベントを募集することと、宿泊客をどうするか考えていく。今後の展開は、取材を受けたり、イベントの企画、区内の旅館・星のや東京と神田祭の体験企画を調整している。

外国人を招いて地域の飲食店と連携し、神田地域の魅力を大手町まで広げたい。まだ歴史的近代建築が残っているので、再生させる活動に輪を広げ、つなげて行きたい。

(新田会長) 普請部門は今年から設置。目的は空室のリノベーションによる活動拠点や看板建築等の木造建築を保全し活用する活動、市民が自主的に都市環境を整備しながら活動するのをサポートし、最大500万円の助成をする。まず、7月に調査費用として10万円の助成。中間発表会の時に行った二次審査で調査内容を審査し、500万円を上限とした助成を決定。その時に図面等を出して頂き、それにより今日は完成形の発表をする。

助成に関して5つの条件を提示。①建物の保全、及び地域コミュニティに資する建物活用を図る。②宿泊施設等建物の活用は運営プロセスを明確化し、関連法令を順守すること。③3年先を見越した事業計画を作成すること。④建物所有者と5年以上の賃貸借契約を締結する。⑤会の法人化、もしくは会としての会則、運営組織体系図、役割分担表の作成。

中間発表会では、この建物が宿泊施設として使われるか否かが不明瞭であり、海老原さんの祖母所有の建物が継続的に公的な物として使われるか否かが議論された。

今回、建物の完成は第三者からの意見書、海老原商店を活かす会の設立主意書、運営組織体系図、賃貸契約書写しも頂いた。5条件を整えての成果発表であったと思う。

Q：海老原家のファミリーヒストリーが面白かった。ぜひ、それをまとめて頂きたい。

道路に面した土間のスペースを日常的に気軽に活用するには、具体的には？

A：ギャラリー等、イベントに開放して行く。常時オープンはまだ難しいが、今後、展示物等が整えば可能かと思う。

Q：事務スペースとして、オフィスに使っていくのか？ 今は誰もいない状態か？

A：オフィスではない。ギャラリーだけでなくカフェとしての可能性も考慮中。人件費や法的なこと、衛生上もクリアーしていく。

Q：民泊については、法的な条件等課題は？

A：以前から、法的には180日上限とかあるので、空いている期間をイベントに当てるなど、運営を前向きに考えている。

Q：持ち主の祖母様はどんな感想を？ 今後、まちサポの終了後の事業計画は？

A：あの家に嫁いで子供を育て、商売を支えて来た祖母節子には、建物への愛着もあり、柱1本にも思い出がある。周りの支援で活かされることを喜んでいる。使用料は地域の方にはリーズナブルに。安全を考えての改修費は予算の倍以上だが、誰にも課題だと思う。

## 審査員講評

### 中島副会長



皆さま、ほんとうにお疲れさまでした。公開審査会の時に比べると、皆さんもリラックスされて、楽しい会でした。

実は、千代田区の活動を見ておりますと、痛感するのですが、非常に多様であります。活動もそうですが、応募されている方々が

多様だと言うのが、凄く印象に残っております。最初の審査会でそう思ったのですが、改めて、今日も、そう思いました。

当然、生粋の神田っ子とか、麹町の人、地元の方もいれば、大学生もいる。それに加えて、今日、改めて聞いていて、「文人通

りギャラリーカフェ」とか、「内神田を面白がる会」とかみたいな、マンションの方がおられる。普通の地域ですと、なかなか出て来られないような方が、参加しておられる。

それから、「オクトパシー」や「PCN 秋葉原」のようなエンジニアや理系の方、そう言う方もあまり「まちづくり」との接点がないのですが、ここには出てきておられる。これは、千代田区のまちの多様性を反映しているのだと思いますが、そういうことから見ると、凄くユニークで面白くて、千代田区らしいことだと思います。

皆さんは、地域の中で活動しておられるのですが、こうい



うまちづくりサポート活動というのは、この日本でも、世界でも珍しいのではないかと思います。皆さんは自分の地域で成果を出して、意義を感じられているのだと思いますが、我々から見ると、凄いことだと思うわけです。

ぜひ、皆さん、凄いことなのだ、自信と誇りをもって、これからも続けて行ってほしいと思います。

ほんとうに、千代田区の凄いパワーを感じます。皆さん一人一人の多様性も感じます。これからもどんどん発信して行って、地域に密着して、サポートの意義をどんどん高めて頂けると思います。今回は、特別、そういう可能性を感じました。

本当に、今日はお疲れ様でした。

## 片岡委員



皆さま、どうもお疲れさまでございました。ありがとうございます。

今回、初めて審査会委員を務めさせていただきました。千代田区のことを、こんなに多くの方が考えて、真剣に取り組んでおら

れるのかと驚き、感謝いたしました。我々、町会としても、皆さまの活動をできる限り応援していこうと思います。

お手伝いできることも何か有るかと思しますので、どうぞ、今後も、よろしく願いいたします。

## 後藤委員



長い時間、お疲れさまでした。そして、ありがとうございます。

今日、皆さんの発表を聞いておりました。何かレベルが上がったのではないかと思います。それから、1人、2人が中心にやられているグループというのは大変だ

など、痛感しました。どうしても、全部の負担がその人にかかってしまう。本当に、ご苦労さまで言いたいくらいです。

あとは思うのは、やっている活動をどうやって知らせるかということ。マンション・カフェや文人通りでも、今、マンションは閉鎖状態で、コミュニケーションを取ろうと思っても取れない。どうやって、そのイベント等をお知らせするかというのが課題だ

など凄く感じました。これは次の回でも、そういう問題がずっと続いて行くのだろうと思います。

何とか、そのことを解決できないかと。だけど、そのためには、もっと、まちづくりがいわゆる公の機関としてのお墨付きを持ったものにできないか。「いかがわしいものではありません」と。そう言う気がすごくしました。

先ほどの、グループが言うように、千代田区の広報に取上げて頂けないかという、それも一つの方法だと思いますし、広報をどうするかということ。

それから、「継続して行く」ということが凄く大事だということをおもいました。

どうも、ご苦労さまでした。

## 江口委員



本日は、どうもありがとうございました。皆さんからの発表をお聞きして、課題について伺っているうちに、一つ思い出したことがありますので、それをお話いたします。

私どもは金融機関ですので、金融庁の方が査察に来られることもあります。そこで

面接と言うか、面談などがありまして、当局の方に「地域特性に応じた活動をおやりなさい」と言われました。都銀さんとはお客様の層も違いますし、人員の数も違います。信用金庫なので、規模も違います。それに応じた活動と言うことだったのだと思います。

皆さんの活動も同じだと思います。いろいろやりたいこと、大きな目標を持っておられることと思いますが、人員的な制約もあると思いますし、グループの中にも、今日もいらっしゃいましたが、大変な方もおられました。そんな時は、一旦肩の力を抜いて、半歩下がって、もう一度活動を積み直してもいいのかなと思いました。

必ずしも大きなイベントをやることではなくて、こつこつと地道に活動を継続して行くことだと感じました。これからも、ぜひ息長く持続して行って頂けたらと思います。頑張ってください。

今日は、ありがとうございました。

## 朝比奈委員



皆さん、今日の午後は準備もあり、どうもお疲れさまでした。

一つ思ったことがあります。このサポート事業は市民の活動へのものです。ですから、他の多種企業の仕事や事業であったりとは、また違ったトライするチャレンジだと思います。それはうまく行くこともあり、そうでないこともあったりするわけで、決してうまく行かなかったからダメな活動だということではないわけです。

なおかつ、今日頂いた資料にも発表にもあったように、「他の団体と連携ができました」と言う活動がいくつもあったと思います。それはサポートの団体同士もあれば、地域の学校であったり、

区役所であったりもして、これまで縁が無い所とつながりができたわけですね。それは、とても大事な成果ではないかと思っています。

それをこれからも、どんどん活かして行って頂けたらと思います。

最後に、海老原商店にも会場ができましたということですので、私はそこに着目してしまったのですが、せっかく、この事業で生まれた場所ですので、皆さんでそこに集まり、使いながら支えて、何か新しい活動が生まれたいと思います。

また、来年、皆さんにお目にかかれたらうれしいです。

今日は、ありがとうございました。

## 小川委員



皆さま、本当に魅力的な面白い、活発な活動をして下さり、ありがとうございました。

途中で断念された団体もあり、残念な所もありましたが、いずれも個性的な活動でした。皆さんが最初に思ってた志を、

また引き継いで行って頂きたいと思っています。

私個人としては、とくに「マンション・カフェ」と「内神田

面白いがる会」、「神保町コミュニティプラザ」さんには、一年間いろいろと協力して頂き、お世話になりました。本当にありがとうございました。

今後、区としても、また新しい方向で連携してやろうと思っていますので、皆さんと楽しくやっていければと思います。よろしくお願いいたします。

ありがとうございました。

## 【総評】新田会長



皆さん、本当に、お疲れ様でございました。

発表グループ一覧の頁を見て頂くと、「申請回数」というのが書いてあったと思います。

今回、「申請回数」2年目というのは、「はじめて部門」から申請して頂いて、1回、2回と、2年連続で参加して頂いた方もおられますし、今回、「申請回数」1回という方の中には、「文人通りギャラリーカフェ」と、「グリーンネイバーフッド千代田を目指す会」のように「はじめて部門」を経て、1回目に申請をして頂き、挑戦して頂きました。

皆さん、勿論、来年のことも考えておられると思いますが、千代田まちづくりサポートの申請書の最初の文言に、

「現在から将来にわたって、千代田区を元気ある、住みよい、魅力的な町にする、市民の自主的で主体的なまちづくり活動を応援し、助成する事業」

とあります。その中で、私が特にずっと大切にしているのは、「市民の自主的で主体的なまちづくり活動」なのだなと、ずっと感じています。

第16回公開審査会を7月に区役所で開かせて頂いて、11月

16日に中間発表会、今回、成果発表会と進めて行く中で、私は、この千代田まちづくりサポートのよさは、「公開」のよさ、オープンにつながれると言う意味での、それであると思います。

それから、「助成金」というのも、何度も発言しておりますが、これは、あくまでも「継続する」ためのお金というよりは、「挑戦する」ためのお金なのです。ですので、失敗を怖れずにどんどん挑戦して頂き、審査会委員からの知恵を引き出すようなイメージでやって頂けるといいなと思っています。

事務局の方を味方につけて、戦う相手としてではなく、と思います。それから、第16回の特徴は、まちプラがまちサポのサポートに入って下さったことで、嬉しく思います。このまちプラ自身も実はまだできたばかりなので、プロとしてと言うよりは、皆さんと共に育ち合う市民のイメージで進んで行ってほしいと思います。

今回、このような形で終わったことを嬉しく思いますし、このまちサポは、3年で一応卒業なのですが、第3回目で卒業の方がおられないので、恐らく全員、皆さん同士が、次回の7月に公開審査会で、つまり3か月後に、また再会するわけです。それを楽しみにして頂きたいと思っています。

どうもありがとうございました。



## 【退任挨拶】 新田会長



私は、2009年、平成20年から、審査会委員をさせて頂いておりました。

当初は、NPO法人ということで、法人の枠で参加させて頂き、昨年は副会長、今年度は会長ということで、携わらせていただきました。ちょうど、第10回から、このまちづくりサポートが、まちみらい千代田が財団法人から公益財団法人になるのか、一般財団法人になるのか、とか、大きなうねりの中で、このまちづくりサポート自体をどうして行ったらいいのか、ということと、随分、審査会委員の皆さんや、参加されている皆さん、事務局の皆さん達と、実はご議論させて頂きました。

結構激しく闘ったり、意見をぶつけ合ったり、こんなものは無くそうとか、無くなってしまってもいいのではないかと等と、

厳しい議論もさせて頂きました。だからこそ、そういう議論を経て、これを持続していきたいという皆さんが、きちっと、前に進めて頂けたのだと思っています。それだけの歴史の詰まった、皆さんの千代田まちづくりサポートです。

その中で、最後は会長という大任を仰せつかり、最初は、それこそ、「できない」とお断りをしていました。けれども、「長年関わっているということは、何か貢献できるでしょう」と言われて、お受けいたしました。

貢献できたのかどうか、わかりませんが、ほんとうにサポートというのは難しいと、以前から10年、20年と市民活動というのはしてきているのですが、サポートほど難しいことはないと思ひ、自分ではやはりサポートより、自分で活動する方が楽しいと思っていますのです。

けれども、まちづくりでよく一般的に言われている、「他所者」、「バカ者」、「若者」というのを、うまくまちづくりをやるには、それらを取り込みましょう、と言う言葉があります。ただ、私は千代田のまちづくりに参加させて頂いて、ベースには、「地元愛」が無ければだめだと、それら3つに+「ラブ」がないといけない、と思っています。

私自身は、日本NPOセンターで活動していますし、実は千代田区に事務局がございます。法人か否かにかかわらず、NPOというのを全国的、世界的にサポートするセンターですので、ぜひ、引き続き利用して頂きたいと思ひます。

本当に、皆さんに、育てていただきました。

第16回まで、8年間という長きにわたり、ありがとうございました。

## 【退任挨拶】 江口委員



2年間という短い間でしたが、審査会委員として関わらせていただきました。

こういったまちづくり活動に携わったことは全くありません

でしたので、正直言って、右も左も解らないまま、他の委員の方、事務局の方、そしてグループの皆さまにいろいろ教えて頂きました。いろんなことを勉強させていただき、良い体験になりました。

実は、私は会社の方で、企業再生と地域振興とを併せた部署におりましたが、今度新しく、地域振興を単独で立ち上げました。残念ながら、私自身は、その部署の担当をやることはできなくて、今回、この委員も退任させて頂くことになりました。

7月以降は、新しい担当者が、この委員を当たらせて頂くことになりましたので、引き続き、よろしくお願ひいたします。

会社としましては、新しい地域振興部を設立しましたので、これまで以上に千代田区のまちづくり活動に関わってほしいと思っています。我々にできることがありましたら、なんでもおっしゃって下さい。

これからもどうぞよろしくお願ひいたします。活動の方、頑張ってください。

どうもありがとうございました。

## ■「市民まちづくり支援・都市ネットワーク会議」 ～広がる市民まちづくり支援～

千代田まちづくりサポートの特徴の一つとして、公開の場で審査を行う公開審査会があります。応募グループにプレゼンをしていただき、質疑応答が行われることで、活動に対する審査会委員からの助言が受けられたり、他の応募グループとの連携、協働が生まれたりする場となっています。

公開審査型のまちづくり助成を進める自治体・財団法人等が情報交換等を行う場として、「市民まちづくり支援・都市ネットワーク会議（略称：ネットワーク会議）」が2008年3月に設立され、まちみらい千代田も積極的に参加をしています。

その設立趣旨は、参加メンバーが連携し協働することで、今まで蓄積してきた助成事業における公開審査会、報告会、交流会の企画・運営方法をはじめとする、まちづくり支援のノウハウを互いに高めあうとともに、まちづくりの確かな成果と可能性を社会にアピールし地域に広く還元することにあります。

「ネットワーク会議の活動」は、「市民まちづくりの支援や助成事業に関する情報交換、調査研究」、「市民まちづくり支援にかかわる情報の発信」、「市民まちづくりと産官学との連携に関すること」、「会員相互の連携協力の促進」です。まちみらい千代田もネットワーク会議を活用して、まちサポ事業をさらに充実したものにしています。

### ※ネットワーク会議会員

（一財）世田谷トラストまちづくり、（公財）練馬区環境まちづくり公社練馬みどりのまちづくりセンター、草加市、横浜市、（公財）名古屋まちづくり公社名古屋都市センター、高知市、福山市、足立区、（株）横浜都市みらい、いたばし総合ボランティアセンター、（公財）まちみらい千代田

## ■まちづくり事業推進のため、財団の趣旨に賛同し、ご支援くださる賛助会員を募集しています。

### 公益財団法人まちみらい千代田 賛助会員一覧（敬称略）

平成28年12月現在

#### 【法人会員】

業種	会員名
金融	興産信用金庫
	西武信用金庫 神田支店
	(株) 東京都民銀行 神田支店
	(株) 東日本銀行 飯田橋支店
	みずほ信託銀行 (株)
建築土木	(株) エコ・24
	(株) 久保工
	(株) 竹中工務店
	(株) ナカノフドー建設
建設設計	(株) 楠山設計
	(一社) 改修設計センター
	(株) 翔設計
	(一社) 東京都建築士事務所協会千代田支部
	パシフィックコンサルタンツ (株)
緑花・環境	日産緑化 (株)
	(株) 日昇緑化研究所
広告代理	(株) フィレール
不動産	エヌティティ都市開発 (株)
	協永ソフトエンジニアリング (株)
	住友不動産 (株)
	天翔ビルディング (株)
	プラットフォームサービス (株)
	三井不動産 (株)
	三菱地所 (株)
	安田不動産 (株)
	東京建物 (株)
コンサルタント	NPO 法人 都市住宅とまちづくり研究会
	(株) パシフィック総合開発研究所
IT 関連	(株) メディアリンク

#### 【個人会員】

業種	会員名
その他	(株) i-tec24
	(株) イサミヤ
	ウェブリオ (株)
	(有) エイアイ企画
	(株) エス・エー・ピー
	大塚製薬 (株) 東京支店
	(株) 弘周舎
	ゴージャージャパン (株)
	(株) こどもの館
	(株) コンベンションリンケージ
	鈴新 (株)
	(株) すららネット
	瀬味証券印刷 (株)
	(株) TALO 都市企画
	(一社) 千代田区観光協会
	東洋美術印刷 (株)
	(株) 巴商会
	(株) 日精ピーアール
	日新火災海上保険株式会社東京事業部 東京西支店
	(株) バイオレンジャーズ
	ハネクトーン早川 (株)
	(株) ヒューネルエフイーイー
	(株) フォトロン
	(株) フロンティアコンサルティング
富士ゼロックス (株)	
フジマイクロ (株)	
(一社) マンション管理組合支援センター	
三喜産業 (株)	
牟禮印刷 (株)	
ヨシモトポール (株)	

飯塚 克治  
池 俊郎  
浦田 泉  
大塚 茂  
加藤 武夫  
小林 誠  
瀬川 昌輝  
立山 光昭  
戸田 豊重  
堀部 剛正  
三浦 博子  
宮園 耕二  
三輪 瑛子  
他6名

(法人:59個人:19計:78)